

研究室紹介

地域文化プログラム
佐野真理子先生

人間文化プログラム
柴田美紀先生

スポーツ科学プログラム
山崎昌廣先生

生命科学プログラム
平野哲男先生

総合物理プログラム
石坂智先生



Professional Introduction

研究内容は？

私の専門は文化人類学で、研究対象としているのはアメリカ社会と日本社会です。人間は、生物的に共通しているという普遍的なものに、社会や文化などの多様なものから影響を受け、変わっていきます。文化人類学では、一見普遍的なものに、どういったものが関わる事でどんな多様性があるのかを見ていきます。こういった多様性というものに凄く関心がありますね。

また、私は現在アクセシビリティのセンター長を務めています。十二年ほど前から障害がある生徒の為にボランティア活動として始めたのですが、当初は本当に何もなかったんです。そこから今のセンターができるまでに十年ほどかかったんですね。このアクセシビリティと文化人類学にどういう関係があるかと言うと、多様性がある点です。先ほども述べたような文化人類学の多様性って、何も海外だけではないんですね。私たち

Professional

地域文化プログラム

さの まりこ
佐野 真理子 先生

Sougo Kagaku



のもっと身近なところにもあり、例えば、大学の授業です。普段の授業を、もし盲目の方、難聴の方が同時に受けたら、それは全く異なったものになってきます。つまり、人によって見え方が異なるという多様性が大学の授業にもあるわけです。

私が、アクセシビリティに力を入れたしたのは、大学という社会で、授業で習う事だけでなく、もっと身近な生活を変える、人を育てることが大切だと思うからです。よく、大学では、研究、教育、支援がバラバラなものとして認識されていますが、これらが絡まりあって初めて意味を成すと思うんですね。研究したことを授業に生かさなければ意味がないし、一部の人にだけ伝わっても意味が無い。せっかく研究した事を授業に生かしても、それを受け取れるのが健全な人達だけで、何か障害がある人達には伝わらないなんてつまらないですね。研究と教育、支援は三つ同時に行われるべきなんです。でも、誰か一人が頑

張っても意味がなく、大学全体がそういうシステムを作らないとダメなんですね。このシステムを作るのにもかなり関わってきましたし、時間もかかりました。

そもそも、私がアクセシビリティが必要だと思ったのは、十二年ほど前に私の授業をとっていた盲目の生徒に、見え方が違って、伝えることが大事なのではなく、伝える事が大切なんだと気付かされたからです。というのも、その生徒と並んで歩いていた時、ちようどすぐく夕焼けがきれいだったの、私は「見てごらん、すぐく夕焼けがきれいだよ」と、言っってしまったんですね。その瞬間、私は、しまった！ と焦って、すぐ謝ったんです。そして、その子は、「先生、どうして謝るの。たとえ夕焼けが見えなくても、想像する事はできるし、その想像が全然違う物だったとしても、何の問題があるの。それよりも、先生が感動している気持ちと共有する事が大事なんだよ」って。だから、見えない

研究室紹介

Professional Introduction

研究までの道のりは？

まず、中学生の時に両親の仕事の都合でグアテマラに行き、その後ノルウェー、スイス、そして日本に帰国してICUに入学しました。初めてグアテマラに行った時は、勿論英語なんてさっぱりだったので、英語学校

だろうから話さないとか、コミュニケーション不足になる方が、よっぽど疎外感を覚えるんですって。確かに、考えてみたら見え方なんて皆違うんですよ。盲目は極端ではありませんが、目が悪い人って普通にいます。その中で、同じ現象がある時に、見方が違うってのは、もうそれは文化なんです。この文化を取り出して考えていくのが文化人類学です。

ですから、私が研究している対象はアメリカ文化と日本文化ですが、研究したことを授業で生かし、すべての生徒に伝えるためのアクセシビリティにも文化人類学が大切となっています。

退職したら、3ヶ月ほど、沖縄とかポルトガル、地中海で暮らしてみたい。もう一度グアテマラにも行きたいですね。

あと、大学の活動からは離れて、ボランティア活動をしたいです。それと、健康維持ですかね（笑）。

将来の夢

文明史基礎研究演習／特別研究(文明史基礎研究)／総合科学演習／象徴人類学研究／解釈人類学演習／現代社会とボランティア活動／文化人類学の世界／地域調査演習Ⅱ／文化人類学A／文化人類学B／民族誌を読む

担当科目

趣味

料理ですね。献立を考える事も好きですね。

広大で好きな場所

特定の場所はないですが、けっこうキャンパス内を歩きますね。30分ほど歩く事はよくします。

塩野七生著の「ローマ人の物語」ですね。

彼女のちょっと気になった点を追求していく姿勢は素晴らしいです。

今、読みたい本

で必死に勉強しました。でも色々な国に行って、初めて日本という国を意識できました。なんか、日本から見ると外国と、実際ってこんなに違うんだって驚かされましたね。思えば、こういうところから文化人類学に関心を持っていったんだと思います。また、帰国して入学したICUは、日本人、留学生、帰国子女が分別されていました。入学して一年は、日本人は英語を、留学生と帰国者は主に日本語を徹底して勉強し、二年次には皆が日本語でも英語でも授業を受けられるレベルまで頑張るんです。つまり、皆何かしらの不得意、得意があるんだっていうことに気付きましたね。こういったところはアクセシビリティに繋がっていったと思います。目が悪かったり、耳がよく聞こえなかったりと、障害が無い人はいないんです。でも、その出来ない事ばかりに目を向け、それを補おうとするのでなく、できることを伸ばそうっていう発想を、ICUで学びましたね。

もし自分が総科生だったら？

私は文化人類学が本当に大好きなので、変らず文化人類学を学ぼうと思います。でも、もう少し文系よりのこともしてみたいですね。あ、あと、乗馬クラブに入りたいです（笑）。

総科生にメッセージを。

もっと好奇心をもって、失敗を恐れずにとことんすることを追求して欲しいですね。あと、自分で選ぶって事は自分を納得させる為にもとても大切です。今、就活で企業に選んでもらうっていう体勢の人が多いと思うのですが、本来はこちらが働くのであって、選ぶ側なんですよね。どうせ同じ時間使ってるなら、自分のしたいことした方が絶対いいです。勿論、そのためのステップは焦らず一歩ずつ上らなくてははいけませんけど。

【担当】 23生 西峯 礼子

23生 豊岳 実由

Professional Introduction

研究内容は？

二言語習得という分野を研究しています。平たく言うところ皆さんは日本で生まれ育ったので必然的に日本語が母語になるんですけど、小学校や中学校から英語を勉強し始めますよね。いずれにせよ母語を習得して使っている状況から、小学校や中学校に行くとき英語を勉強するんですが、その時に母語を第一言語と言っていて、そうすると順番から言ったら英語が二番目の言語なので第二言語となります。英語をやった後でドイツ語などを学んだらそれは第三言語になるのですが、もう広い意味で、三番目でも四番目でも母語以降のものは全部第二言語になります。それで、習得と学習は本当は違うんだけれど、習得って言って学習も入れてしまっています。

いろんな言語で行っています。が、やはり主は英語の習得です。日本の場合には外国語として勉強しているので、第二言語ではないんだけれど広い意味で第二言語

Professional

人間文化プログラム

しばた みき 先生
柴田 美紀 先生

Sougo Kagaku



語習得とされています。

第二言語習得といっても様々なアプローチがあって、例えば英語を何年も勉強しているのになかなか日本語のように上手にならないのにも、母語が邪魔するとか日本語にはない概念があるなど様々な要因があるんですね。その要因にも学習者全員に共通するものと個人的なものがあってどちらも調べないと一概に「こうすれば英語が上手になります」とはなかなか言えないんです。よって大まかには文法知識・脳の働き・社会的な側面の三つに分かれます。

私は何をやっているかということ、正直いろんなことをやっている、あえて言うならば文法知識と社会的な要因が与える影響の両方からアプローチしています。現在は日本人の英語学習者を対象にして、現在完了形がなぜうまく使えないか、またきっちり教えてちゃんと使えるかどうかをなどを研究しています。その研究を授業に生かすこともできるのですから、面白いですよ！

研究までの道のりは？

実は大学では言語学をやっていたんです。チョムスキーという人の理論で卒論も書きました。けれど、言語学をやった気がついたのは、私がどんなに一生懸命言語を研究しても、飢えてる人は飢えたまままだということなんです。だからもう少し世のため人のためになる研究をやりたいと思いました。

大学を卒業したらアメリカの大学院に行きたいと思っていたので、大学4年生の時にもかしたらということになって日本語教員養成講座に通っていたのですが、偶然大学のゼミの先生がアメリカの大学院で日本語を教えるという話を持ちかけてくださって、行きますって即答しました。そこで日本語を教えているときにできる人ときかない人の違いをずっと考えていました。そのあと同じ大学で日本語の先生として教えていたのですが3年間で契約が終わりだったので

研究室紹介

Professional Introduction

どうしようか悩んでいたら、別のところで新しくてなおかつ第二言語習得の博士課程プログラムが作られるということを上司から紹介していただいてそこに行きました。

そのあと日本に帰ってきてしばらくは日本語のことを研究していたのですが、英語を教えることが多くなって、日本人特有の間違いなどを考えるうちに、日本人の英語学習に焦点が変わっていききました。

学生時代は？

大学の時は、大学が名古屋にあったのでよく帰りにデパートや地下街にぶらっと寄ったり、おいしいカフェに行って友達とおしゃべりしたりしていました。

学科は英語学英文学科というところだったので、チョムスキーの論文を英語で読んで、しかも卒論も英語で書かなければならなかったので、4年生の時は毎日同じゼミの人と図書館

自慢のこと

ずばり、旦那さんです！
いないと生きていけません（笑）。

おススメの本

「運命の人」
山崎豊子さんの本です。

コミュニケーションⅡA / チャレンジTOEIC(R) / 第二言語習得論

担当科目

趣味

フラメンコ・ハーフマラソン、エアロビクス・ワイン・旅行かな。基本的に何にでも興味を示す！

座右の銘

「一生懸命」

マイブーム

少し前は、カラオケ。今は加圧トレーニングです。週一でパーソナルトレーナーつけてやっています。

に集まって一日中勉強していましたが。この時がおそらく大学の中で一番勉強しましたね。

また、この時日本語教員養成講座や、週一回英語で行う観光ボランティアの講座にも行っていたので、とても忙しかったです。ですが大学院で役に立ちました。

アメリカでは、大学院に行つて3週間目に胃炎になりました。よく勉強しよく遊びました。大学院の時には教授が好きだったので、よくピクニックやハイキングに行きました。アメリカに行つて私が一番学んだのはタイムマネジメントです。勉強するときは一生懸命やる、遊ぶ時もとことん遊ぶというメリハリは大切だと思いました。

もし総科生だったら？

理系の科目をやりたいと思います。なぜなら、理系が全然できないので。あと理系女子にあげられているからです。プログラムは広島大学に来たばかりな

のでよく分かりませんが、実験がやりたいかな

学生に一言。

「物事はやってみないとわからない」と言いたいです。人間はとて順応性があるから。私の母親がいつも言っていた言葉なのですが「絶対っていうのは、絶対」ということです。というのは、絶対できるということもならないけれど、絶対できないことも努力は報われるといいますが、努力して報われるかどうかは後のことで結果がついてくるから、とにかく一生懸命やりなさいって。努力することで必ずしもビジョン通りにいかないことが多々あるけれど、違う意味でプラスになることがあると思います。

【担当】

23生 西峯 礼子
23生 豊岳 実由

Professional Introduction

研究内容は？

以前は健康者を対象にした運動時の呼吸循環が生理機能にどう関わるのかという研究をしていましたが、今は脊髄損傷者や脳性麻痺者などの障がい者と高齢者を対象として、運動をするような生理的な反応が起こるかという運動生理学的な研究を健康と絡めて行っています。まず、脳性麻痺者を対象とした研究についてお話しします。脳性麻痺者は生まれつき体のどこかが麻痺しています。上半身や下半身、腕や足など体の一部が麻痺してしまうときもあれば、知的障害となってしまう場合もあります。麻痺する部位が多岐にわたり、複数ある場合もあるため、これまで体力を測定する方法がありませんでした。しかし体力を測定する必要はあるわけでも共通して体力を測定できる式のようなものはないのかといった研究をしています。それと同時に障がい者のQOL(Quality

Professional

スポーツ科学プログラム

やまさき 山崎
まさひろ 昌廣 先生

Sougo Kagaku



Of Life)とこう生活の質を向上させることに運動はどういった働きをしているのか、役割を果たしているのかという研究もしています。脊髄損傷の方を対象に主にやっているのは筋肉の回復の研究です。脊髄損傷の人たちは大抵下半身が麻痺しているので下半身の筋肉が萎縮しています。そうなると筋肉がだんだんなくなっていくますが、場合によっては筋肉が残っている人もいます。こうした脊髄損傷者の麻痺に関する問題を打開できる可能性があるので京都大学の山中教授が研究しているiPS細胞です。実際脊髄を損傷させたサルにこのiPS細胞を使用して脊髄が修復したという研究結果も出ています。もしそれが人間に应用できるのならば下半身麻痺の人も回復できる可能性がありそうです。しかし仮に回復ができて神経がつながっても筋肉が萎縮してしまって動かなくなったり意味がありません。だから萎縮した筋肉を鍛えておくことはできないのかという研究を3

年前からしています。今は脊髄損傷者の筋肉のMRI画像を見て特徴や年齢や損傷してからの時間、痙攣の有無を調べたり、筋肉が萎縮し自分で動かさなくなった人に電気刺激を送ることで筋肉を収縮させ一定期間後筋肉が少しでも回復するのかわどかを調べています。

研究までの道のりは？

僕は九州芸術工科大学(現九州大学芸術工学部)の出身で、その時は外界の温度や気圧が変化するとどう生理機能が変化するかという環境生理学的研究している人間工学教室というところに所属していました。九州芸術工科大学には温度、気候、風などの様々な気候条件を変えることができる凄く大きな人工気候実験室があって、私はそこで運動した時にどう生体の反応が変わるかということの研究していました。そこでお世話になった先生は大学の先生を育てることが自分の仕事だと考えている

研究室紹介

Professional Introduction

人で、その関係で僕も大学の先生を目指すべく教育を受けました。そして晴れて大学の先生となり熊本大学に就職しました。熊本大学の体質学研究所の生理学研究室に所属すると、ここにも人工気候実験室があったので、温熱生理学とか運動生理学とかを障がい者も対象に含めて研究しました。しかし今から約20年前、広島大学で運動障がい学の専門家を雇用したいという公募がでていて、僕は熊本大学でも車いすの人を対象に研究していたので応募して、広島大学にうつってきました。そのときに障がい者を対象とした研究を続けてくださいと当時の保健体育講座の教授に言われ、それからずっと脊髄損傷者を対象として研究して、そのうち高齢者や脳性麻痺の人も研究の対象に入ってきました。それが、一般人じゃなくて障がい者を対象に研究するようになった経緯です。

趣味

山登りと魚釣り。

僕はずっと理系で過ごしてきたから文系の方のことをしてみたいね。

もし総科生だったら？

将来の夢

大学院生が残っているから、学位を出すことが第一の仕事だと思う。定年になったらじっくり山登りとか。

座右の銘

好きな言葉は克己。

自慢のこと

何もないのが自慢（笑）。

おススメの本

雑誌は文藝春秋。
小説なら藤沢周平。

スポーツ実習／健康スポーツ科学／人間と健康／健康スポーツ科学演習／健康スポーツ科学実験／健康スポーツ科学実験法／スポーツ運動生理学／身体運動科学演習／身体運動科学研究演習／健康福祉学／特別研究（身体運動科学研究）／総合科学演習

担当科目

自分の研究室かな。あとは隣にある学生の部屋で雑談できるのもいいね。 広大で好きな場所

学生時代は？

特に印象に残っているのはヨット部でのクラブ活動です。冬の寒い時や夏の暑い時に合宿をしていました。あと、大学の4年間はあんまり勉強をしなかった。だから授業中に寝る学生の気持ちには良く分かります。けれど大学を卒業して当時は大学院がなかったので専攻科に残ったのですが、その時は勉強しました。学生の時は勉強しなければいけないという気持ちが必要になったら一生懸命やりました。けれど一番思いついて残っているのはやっぱりクラブ活動です。

学生に一言。

教養授業や領域科目、パッケージ科目の授業をやっているけれどせつかく話を聞くチャンスなのにとにかく学生は寝るよね。それが一番気になる。専門の授業は人数が少ないから寝る人はいないけれど、規模の大き

い授業ではたくさんいるよね。もうちょっと真剣に取り組んで欲しいという思いがあります。

学生の生活については私の身近にいる学生は特に問題のある学生はいないけれど、学生全体を見るとおとなしいと言うか自己主張をしない学生が増えたなとは思っています。

【担当】23生 飯尾 優一郎
23生 西道 涼

Professional Introduction

研究内容は？

僕は分子生物学、その中でも病気のメカニズムを研究しています。医学部や薬学部でも病気の研究はしているんですが、総合科学部ではそれとは違う視点でやれるのではないかと思っ
て、なぜ病気が起こるかということ
を研究するようになりまし
た。たとえば、がんという病
気です。がん細胞ってというのは自
分の細胞が変化したものであつ
て外からやってきたものじゃな
い。それと免疫がからむ病気が、
つまり膠原病ですね。外から悪
いやつがやってきて攻撃してい
るわけではなく、勘違いして攻
撃してしまうために自分の体を
痛めてしまう。そんな病気を理
解しようと思うと一筋縄じゃい
かなくて、なぜそういうことが
起こるのか、生物進化をふくめ
た広い視点から考えないとなか
なかわからない。膠原病のひと
つで皮膚やその他の臓器の病変
がおこる全身性強皮症という病
気があるんですけど、その病気

Professional

生命科学プログラム

ひらの まつお
平野 哲男 先生

Sougou Kagaku



を遺伝的におこすモデルマウス
をつくれないう研究を最
近始めました。

研究までの道のりは？

僕自身は理学部の出身で物理
学を専攻していました。当時、
分子生物学はこれからの学問と
いうことで有望視されていて、
僕自身も興味があったのでだ
んだん分子生物学をやりたい、
して「生物学」をやる以上は生
きた動物や細胞を触りたいと考
えるようになった。それでどこ
かその方面に関われないかと思
っていたら、大学院の時に京大
ウイルス研究所に、その後、東
大医学研究所に入ることがで
きて、まあ要するに医学の方に
ポンッと踏み込んだりして
す。そこでみんなが話すことは
病気やウイルス、免疫の話ばか
りで、僕も知らないわけにはい
かないから勉強しました。初め
は物理しか知らなかったからな
かなか大変だったけど、分野の
違うところとずっとシフトして

いったため、医学関係のバック
グラウンドも持つことができました。つまり、理学部のバック
グラウンドの上に医学が積み重
なって、次にここに来たら総合
科学部にはもつとといろんな専
門の人がいて。そういう意味で、
これからもここで研究の新しい
視点が得られるのではないかと
思っています。

学生時代は？

大学院のときはもう朝から晩
まで研究ばかりでそれ以外の
ことはしていませんでした。僕
は京都大学出身だけど、京大
学っていうところがもう学生を
完全にほったらかしする場所な
んです。ほったらかしという
自由でいいみたいに聞こえるか
もしれないけど、これは実際に
は究極的な厳しさで、要するに
遊びほうけて駄目になっていく
奴は放っておくってことなんで
す。こっちからお願ひしてつき
あってもらわないとほんとに何
も教えてくれない。卒論とかも

研究室紹介

Professional Introduction

今みたい先生は手取り足取り指導してくれなくて完全にほったらかし。どうぞご自由に、やる気ないなら出て行って下さいって言うような雰囲気だったので、遊ぶけれど一方债务利息も不安。そんな毎日でした。

自由な中で得たものが研究に活かされているのですか？

それはあると思う。待っていても何も教えてくれない。自分で何が問題で何が面白いことなのかを見つけないと相手にもしてもらえないから自分なりにいろいろ考えました。だから、今の教育も善し悪しで、自分で動かなくても面倒みてくれるからまあそれなりに知識は身に付くけども、いざ一人でやらないといけないとなるとちょっと途方に暮れちゃいますよね。

もし総科生だったら？

総合科学部生の状況は、専門をシフトしてきた僕の状況と重

化学実験／生命科学実験／細胞生物学／
科学実験法・同実験／生命科学実験法
担当科目

座右の銘 「地獄への道は善意で敷き詰められている。」
(順調にいきすぎているときは注意しましょうっていうニュアンス)

趣味 水泳・スキー（10年以上やってない）・自転車。

「人体 失敗の進化史」（光文社新書）
自分の専門と少し離れた分野の本を読んでみるっていうのは好きだし面白いです。
おススメの本

学生の頃の夢 研究者になることでした。

なる気はするんですけど。だからやっぱり興味のあることを手当たり次第にやってみようとするでしょう。総合科学部は、自分の専門を始めからあんまり狭く決めなくてもいいことに魅力を感じて入ってきた人が多いんじゃないかと想像しますけども、それは4年間かけて自分がこれからやっていくことを見つけてそれに集約していきなさいっていう意味だと思っんです。

学生に一言。

ありきたりだけでも、好きなことやってください。大学を卒業して社会にでたら、やっぱり何かをやって食っていかないといけないわけですよ。としたら、嫌いなことを一生仕事にするのはつらいことです。だから、これだったら一生やってもいいなっていうことを見つけてほしい。けれど、お金持ちになるとか、有名人になるとか、ものすごい業績あげてノーベル賞をとるとか、そういうのは運とか人

とのめぐりあいとか、自分以外の力が働かないと起こらないんです。だから、始めるときにこれは自分が何十年やっても苦痛じゃない、むしろ好きだったっていうことをやれば、たとえ華々しい成功をおさめるとかいうゴールに達しなくても、少なくとも好きなこと続けられたっていうことは残るわけじゃないです。とは言え、実は、好きなことってというのは一生懸命探さないとなかなか見つからないですよ。とりあえず、これだったら十年続けてもハッピーだ、て思えることを探しましょう。それを目標にしたらいんじゃないですか。

【担当】 23生 大濱 高佳
23生 加藤 正暉

Professional Introduction

研究内容は？

僕は量子情報の理論をやっています。具体的にいうと、量子通信とか量子暗号とか量子コンピュータとかです。量子情報というのは物理学の量子力学と情報科学が融合してできた新しい分野で、最近注目されている分野でもあります。そもそも量子力学というのは、原子や分子のミクロな世界を記述している理論なんですけど、そこでは現実の私たちが普通に考えるものとは全然違う非常に特異な現象が出てくるんです。例えば、同じ粒子なのに波の性質を持っているとか、特異で奇怪な性質を持っているのですけど、それが実は情報処理の分野、つまり速い計算や大容量の通信、あるいは絶対に盗聴されない暗号作りに利用できることがここ数年でわかってきたんですね。それが最近注目されている理由です。

特に量子エンタングルメントというのは、量子力学のミクロな世界で、普通私たちが常識的

Professional

総合物理プログラム

いしざか さとし
石坂 智 先生

Sougou Kagaku



に考えることから非常にかけ離れているものの一つなんです。例えば、どんなに距離が離れていても測定結果の間に相関が出てくるもの。そういったものが実際にあって、それが使えるとわかってきたんです。

たとえばハイゼンベルグの不確定性原理で言うと、どちらかを決めるとどちらかが決まらないということですよ。でもそういうことは暗号になるわけですよ。盗聴者が観測すると状態が変わってしまう。それで盗聴者を検出することができ。他にも量子的なふるまいをするビット（量子ビット）に情報を乗せて送ることもできます。普通のビットは0と1しかとりませんが、量子ビットというのは0と1を重ね合わせることができ。すると自由度が増えますから、当然計算も速くできますし、大容量の通信にも使えますし、さっき言ったように0と1を重ね合わせた状態をうまく作って置いて、誰かが測定すると状態が変わるとい暗号を作

ることができるということがわかっていきます。

研究までの道のりは？

実は私は一昨年前ここに赴任してきたばかりで、その前は某企業（NEC）にいたんです。そこでは始め半導体微細構造という、ミクロとマクロの中間のメソスコピックと呼ばれている領域の研究をしてたんですね。半導体とかCPUとか、どんどん小さくしていくとやっぱり量子力学的な現象が出てきちゃうんですよ。それをどういう風にか使えないかと研究を始めたのが始まりでした。その時は普通の情報処理に量子力学的な効果をうまく使ったデバイスを作れないかという研究だったんですけど、それが一九九〇年代の終わりくらいから二〇〇〇年にかけてもっと積極的に量子力学の性質を使うと、もっとすごいことができるというわけで、それがきっかけとなって今の研究に移っていきました。

研究室紹介

Professional Introduction

学生時代は？

熱中していたってわけじゃないんですけど、ソフトウェアを作っていました。当時はまだコンピュータを何に使っていたのかよくわかっておらず、今と違ってソフトウェアもそんなになくて自分で作るしかない時代だったんです。そしてその頃、学生実験やっていたグラフを書くのが面倒くさかったから自動的にコンピュータを使ってグラフを書けたらいいな、それこそがコンピュータのやるべきことだと思って、Ngraphという自動的にグラフを書くソフトを作ったんですね。そんなこともやっていました。大学院に行ったときに初めて一般公開して、それから結構有名になったりもしました。学生の時からもう三〇年近くたっているけど、まだ使っている人もいますし、自分でも使っています。学生の時やったことって、わりと将来に関係してくるので、たかが学生だからと思わずに、いろいろやって

温故知新にしとこうかな。個人的に好きなのは一期一会。

座右の銘

みんなをわっと言わせるような発見ができればなと思います。

将来の夢

おススメの本

朝永振一郎先生の「物理学とは何だろうか」と「光子の裁判」がおもしろいですよ。

趣味

天体観測っていうと大げさだけど星を見るのは好きですね。

自慢の品

自宅に置いてある口径15センチのでっかい双眼鏡です。

エレクトロニクス／量子情報論／
相関系量子論／物理と情報／
物理学実験／物理学基礎実験／
物理学基礎実験法

担当科目

広大で好きな場所

東広島天文台は好きですね。キャンパスだと……。

ると面白いと思いますよ。

ニュートリノが光速を超えたという話についてどう思いますか？

この話に関しては、個人的には超えてほしいと思います。どうしてかというのと、そうしたら物理がすごく面白くなるから。というのも、やっぱりアインシュタインの出した相対性理論っていうのは、いわゆる制限なんですよ。そうなるといういろいろできることが限られてしまうので、超えてくれた方がこっちとしては楽しいんです。ただ個人的に冷静に見ると、あの実験はたぶん間違っていて、超えてないんだらうなという気がします。

総科生に一言

既存の分野はそれぞれがちゃんと分けられていることが多いですよ。だけどほんとに新しいことは分野が融合した時に現れるんです。そういう融合分野ってホント面白いことが出て

くるので、せっかく総合科学部に来たのですから、そういうところにもできるだけ目を向けて、「新しい分野を自分が切り開いていくんだ」くらいの意気込みをもってやっていただけると、楽しいんじゃないかなと思いますね。融合分野の例を挙げると僕がやっている量子情報は物理学と情報科学の融合分野なわけです。最近では量子情報と光合成、つまり生体と融合させて考えている人もいます。生体と量子力学のようにパッと見関係ないように見える分野でも融合して面白くなるんですよ。他にも経済なんかにも物理で養われた数学やテクニクを使われることがあります。特に物理はその基本を解明したりする学問だから、そこで使われるテクニクは、わりといろんな分野に応用可能なもので、それはそういう方を目指していくのも面白いと思うし、新しい分野を開拓するのは楽しいと思いますよ。

【担当】23生 飯尾 優一郎